

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年6月4日
【会社名】	K F E J A P A N株式会社
【英訳名】	K F E J A P A N C O . , L T D .
【代表者の役職氏名】	代表取締役 原田 隆朗
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目18番地20
【電話番号】	045-474-1245(代表)
【事務連絡者氏名】	C F O取締役管理統括本部長 中島 純次
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目18番地20
【電話番号】	045-474-1259
【事務連絡者氏名】	C F O取締役管理統括本部長 中島 純次
【届出の対象とした募集有価証券の種類】	新株予約権証券
【届出の対象とした募集金額】	その他の者に対する割当 3,943,745円 新株予約権証券の発行価額の総額に新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の合計額を合算した金額 403,953,745円 (注)新株予約権の権利行使期間内に行使が行われない場合及び当社が取得した新株予約権を消却した場合には、新株予約権証券の発行価額の総額に新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の合計額を合算した金額は減少します。
【安定操作に関する事項】	該当事項はありません。
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

平成22年5月24日付で関東財務局長に提出した有価証券届出書及び平成22年6月3日付で関東財務局長に提出した有価証券届出書の訂正届出書の記載事項に一部誤りがあり訂正すべき事項が生じたため、有価証券届出書の訂正届出書を提出するものであります。

## 2【訂正事項】

### 第三部 追完情報

2. 臨時報告書の提出
3. 最近の業績の概要

## 3【訂正箇所】

訂正箇所は\_線で示しております。

### 第三部 【追完情報】

#### 2. 臨時報告書の提出

(訂正前)

後記「第四部 組込情報」に記載の有価証券報告書（第10期事業年度）の提出日以降、本有価証券届出書の訂正届出書提出日（平成22年6月3日）までの間において、以下の臨時報告書を提出しております。

(訂正後)

後記「第四部 組込情報」に記載の有価証券報告書（第10期事業年度）の提出日以降、本有価証券届出書の訂正届出書提出日（平成22年6月3日）までの間において、以下の臨時報告書を提出しております。

(後略)

#### 3. 最近の業績の概要

##### 【連結財務諸表】

#### (5)【継続企業の前提に関する注記】

(訂正前)

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

当社グループの当連結会計年度の売上高は6,547百万円となり、前連結会計年度比では26.8%の大幅な減収となったため、営業損失は554百万円、経常損失は597百万円、当期純損失は508百万円となり、2期連続の営業損失、経常損失及び当期純損失を計上しております。また現金預金残高が257百万円（前連結会計年度末残高952百万円）と減少し、短期有利子負債が652百万円と短期資金のバランスが悪化しております。

上記のように、当社グループにおいて継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる状況が存在しております。

当社グループは、このような状況を改善するために、「収益力の強化」及び「資金繰りの見直し」に取り組んでおります。

- ・「収益力の強化」

当社グループはこれまで、事業の「育成」と「撤退」の選別を行い、収益改善に向け取り組んでまいりました。

(後略)

(訂正後)

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

当社グループの当連結会計年度の売上高は6,547百万円となり、前連結会計年度比では26.8%の大幅な減収となったため、営業損失は554百万円、経常損失は597百万円、当期純損失は508百万円となり、2期連続の営業損失、経常損失及び当期純損失を計上しております。また現金預金残高が257百万円（前連結会計年度末残高952百万円）と減少し、短期有利子負債が652百万円と短期資金のバランスが悪化しております。

上記のように、当社グループにおいて継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる状況が存在して  
おります。

当社グループは、このような状況を改善するために、「収益力の強化」及び「資金繰りの見直し」に取り組ん  
でおります。

・「収益力の強化」

当社グループはこれまで、事業の「育成」と「撤退」の選別を行い、収益改善に向け取り組んでまいりました。  
(後略)

#### 【個別財務諸表】

(4) 【継続企業の前提に関する注記】  
(訂正前)

当事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

当社グループの当事業年度の売上高は552百万円となり、前事業年度比では16.2%の大幅な減収となったた  
め、営業損失は320百万円、経常損失は299百万円、当期純損失は616百万円となり、2期連続の営業損失及び当  
期純損失を計上しております。また現金預金残高が100百万円(前事業年度末残高613百万円)と減少し、短期  
有利子負債が249百万円と短期資金のバランスが悪化しております。

(中略)

「収益力の強化」

当社グループはこれまで、事業の「育成」と「撤退」の選別を行い、収益改善に向け取り組んでまいりま  
した。

(後略)

(訂正後)

当事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

当社グループの当事業年度の売上高は552百万円となり、前事業年度比では16.2%の大幅な減収となったた  
め、営業損失は320百万円、経常損失は299百万円、当期純損失は616百万円となり、2期連続の営業損失及び当  
期純損失を計上しております。また現金預金残高が100百万円(前事業年度末残高613百万円)と減少し、短期  
有利子負債が249百万円と短期資金のバランスが悪化しております。

(中略)

「収益力の強化」

当社グループはこれまで、事業の「育成」と「撤退」の選別を行い、収益改善に向け取り組んでまい  
りました。

(後略)